

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	017200523		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	グループホーム ふれあい～朝里		
所在地	〒047-0152 小樽市新光1丁目2-20 (電話) 0134-54-6541		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年11月5日	評価確定日	平成19年12月12日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 10月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	26 人 常勤 26人, 非常勤 人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円
その他の経費(月額)	・高熱水費15,000円 ・暖房費5,000円 (11月～5月)
敷金	(有) (45,000円) 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円) 有りの場合 償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 215 円 昼食 350 円
	夕食 500 円 おやつ 100 円
	または1日当たり 1,165 円

(4) 利用者の概要 (10月 20日現在)

利用者人数	27 名	男性 4 名	女性 23 名
要介護1	1	要介護2	13
要介護3	9	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85.7 歳	最低 77 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝里病院・朝里整形外科内科・三ツ山病院・本間内科 野口整形外科病院・おきつ歯科・おたる港南クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全職員は業務に関する年度目標を自己申告し、常に課題意識を持ち「日々実践・日々成長」の姿が見られる。年齢差や経験差に拘わらず良好なチームワークの中で夫々が主体性を発揮している。利用者の家族は、「父さん母さんの家」との立場で協働意識を持ち、ホーム全体が共同生活体として大きな家族を作っている。その中で、ユニットが全員チームで音楽療法や機能維持を目指す利用者本位の介護計画を作成し、チームケアの実践に取り組んでいる。また、ホームは24時間365日の医療体制を確保し、利用者にとって安らぎ感と安心感が確保されている。ユニットの居室入り口には飾り棚を設置し、自己アピールの場を共同空間の中に彩り入れている。利用者にとって居心地のよい共用空間になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価結果は全職員が共有し、改善課題はホーム長・総括事務長を中心に組織的な取り組みが行われた。浴室名の表示・介護計画の期間設定などの4点は改善したが、建物に施設名表示・権利義務の記載は検討中である。ホームの地域解放は事業所と地域の関係強化の視点から再検討を期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長の下で、評価のねらいや活用方法についてマンツーマンの指導を含め全職員に周知を図った。用紙を配布し記入したものを基にユニット会議で話し合いを行った。評価の一連の過程を通して日々のケアサービスを省み質の向上に繋っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、18年5月に第1回を開催している。ホームの動向・防災安全対策を始め家族の意見・要望を取り上げるなど充実した内容の会議であった。しかし、家族の参加に都合が付かずホーム行事と重ね合わせるなどの工夫を試みたがメンバーが一同に会せず、年3回の開催にし現在に至っている。会議の意義や役割の再確認とメンバー人選にも配慮し、地域に開かれたサービスの質確保を目指し軌道に乗せることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見反映は、「父さん母さんの家だから言わせて頂く」という雰囲気は日常的にできている。意見は即刻改善し形に現わすよう常に努めている。また、ホームの新企画は事前に家族会と相談し意見を反映している。重要事項説明書には、事業所と公的機関の苦情受付を掲載している。家族と事業所の意思疎通は円滑である。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、神社の行事を始め総会にも出席している。また、ホームの行事七夕祭りには近隣の住民が参加し、近くの幼稚園とは相互訪問を通じた交流も行っている。また、近隣住人には毎月便りを配付したり、事業所と地域の関係性の拡大に努めている。
	町内会に加入し、神社の行事を始め総会にも出席している。また、ホームの行事七夕祭りには近隣の住民が参加し、近くの幼稚園とは相互訪問を通じた交流も行っている。また、近隣住人には毎月便りを配付したり、事業所と地域の関係性の拡大に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の下で」という考えのもとに、平成15年ホームを開設した。開設時に掲げた理念「親が自分が入りたくなるホーム創り」の実践に努め、本日に至っている。地域密着型サービスを基にした理念の見直し策定は行われていない。	○	現理念に加えて、地域密着型サービスとして事業所の役割を考え、利用者の地域生活を支える理念・方針・目標を明確にしたサービスの提供が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長・管理者は、日常的にミーティングの中で理念を取り上げ、具現化を図っている。理念の共有化の組織体制はできており、介護サービスの提供が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、神社の行事を始め総会にも出席している。事業所の七夕祭りには近隣住民が参加したり、幼稚園との相互訪問を通じた交流など、事業所と地域の関係性は拡大の方向にある。尚、毎月発行の「ホームドラマふれあい」を近隣住民に配付し、ホーム理解に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長の指導の下で、ねらいや活用方法についてマンツーマンを含め全職員に周知を図っている。評価用紙を配布し、回収したものをユニット会議で話し合い記録・整理が行われた。評価の一連過程を通して、日々のケアサービスを省み質向上に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成17年5月に第1回の会議を開催した。ホームの動向・防災安全対策を始め家族の意見や要望も取り上げるなど、充実した内容の会議である。その後、家族参加に都合ができ行事と重ねるなどの工夫を試みたが、全メンバーが一同に会せず年3回開催とし現在に至っている。	○	運営推進会議の意義や役割を再度確認の上、メンバーの人選にも配慮し地域に開かれたサービスの質確保を目指し、一日も早く会議を軌道に乗せることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のサービスの質向上に向けた、諸課題解決に市担当者と協働関係を築いている。また、市担当者の紹介を受けた他事業所の相談に応じるなど、市担当者と事業所の信頼関係は形成され、連携の基盤はできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子や健康状態は来訪時に報告し、緊急を要する内容は電話で行っている。月初めには、毎月発行のお便り「ホームドラマ」に担当者の一言を添え、利用請求書・預かり金出納のコピーを送っている。また、「ホームドラマ」は家族より好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の運営推進会議や、ホーム行事開催時の家族会には、意見・要望・苦情などを聞き運営に反映している。日常的に「父さん母さんの家だから言わせて頂く」という雰囲気できており、即時改善に努めている。新企画は、家族会に事前相談し意見・意向を聞き運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員同志のコミュニケーションを大切に和気藹藹とした働きやすい職場作りに努めている。職員の主体性を大切に、建設的な意見は積極的に採用し、長く勤めていただくよう配慮している。やむなき退職には、利用者と親交の深い職員を配置し全職員が明るく仕事をし利用者のダメージ緩和に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修と経験に応じた研修の充実を図り職員の資質向上に努めている。外部研修は、希望や経験・習熟度に応じて研修の機会を与え、研修後は社内研修の場で報告し共有を図っている。無資格者には知識・技能の指導を通して、働きながら資格習得の支援を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「小樽グループホーム連絡会」が主催で年4回開催している研修会には、職種に応じて積極的に参加し実践的な交流・連携を図っている。尚、当ホーム総括事務総長は連絡会の副会長を務め、ブロック化・ネットワーク化に向け推進中である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の時点で、ホーム長は2～3回程度の訪問調査を行っている。家族を中心に事業所の見学を行って頂き、家族と本人の話し合いを通して入居に至っている。事業所では、特に入居後に職員・利用者を始めホームのサービスに馴染み、安心して生活ができるように全職員で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫・調理をはじめ歌や生活上の知識を学び、時には子供や孫となり心配を掛け相談にのって頂き、感謝と支え合いの関係を築いている。また、職員は利用者の輪に入り一人ひとりのパイプ役に徹し、一緒に泣き笑い喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思い・願い・好みなどを時間を掛け把握に努めている。把握困難な場合は、日常的な言動やスキンシップを通して本人の立場に立って把握に努め、ミーティングの中で検討し共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身の課題や本人・家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。日常的には3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。課題分析を通して、担当者とケアマネジャーにより介護計画を作成し、全職員でカンファレンスを行い共有を図っている。利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間設定は長期6ヶ月・短期3ヶ月に設定し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し6ヶ月に介護計画の作成を基本にしている。健康状態の変化や医師・看護師の診察を始め本人・家族の意向などにより随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院・教会・通院などは家族対応を原則としているが、家族の都合により事業所の自主サービスとして支援を行なっている。また、近隣病院とは24時間365日の医療体制を確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による定期的な往診を始め、急変時の対応や利用者の健康相談ができるように支援している。入居前からのかかりつけ医の受診は、本人や家族の希望により継続し受診内容は事業所が仲立ちし情報交換を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時や終末期の対応については、入居時に本人・家族に意向を伺い協力医とも相談している。意向に添えるよう、本人・家族と協力医そして事業所で方針を共有している。尚、緊急時の権限委譲と終末期の医療対応については、利用者・家族より同意の署名・捺印を受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないよう言葉かけや関わり方に注意している。事業所では、機密情報守秘誓約書に署名し、個人情報に関する法令厳守に徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには一日の基本的な流れはあるが、利用者の生活習慣や気分・体調に即した希望や意思を尊重しゆっくり過ごして頂けるよう柔軟に対応し支援している。意思表示が困難な利用者には表情を下に本人の立場に立って把握に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者と職員と一緒に考え、作る・食べる・片付けるの一連の流れを利用者の能力や体調に応じて一緒に行っている。食事は必要に応じて介助し会話が弾み家庭的な雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の出勤時間帯の範囲内で利用者の希望を尊重し、曜日・時間・回数自由に入浴を支援している。話し合いにより順番を決め、希望により同姓介助を行っている。尚、入浴拒否には無理強いせず声掛けを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や掃除・食事の一連の流れなど、利用者の有する力を見極めながら相談し、家事参加を通して所属感や達成感が得られるよう支援している。また、ユニットやホームで行う行事を多彩化し楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調・気分などを配慮し散歩・買い物・ドライブ・菜園活動など戸外に出る機会を多くし、季節を感じ心身の活力を引き出し気分転換に繋がるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム長を始め全職員は施錠のない暮らしの大切さを理解し、夜間帯の玄関施錠以外は玄関・居室共に鍵を掛けず、自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	何よりも火災を起こさない対策を最優先に考えている。年1回は消防署の協力を得て、消防車が出動し避難訓練を行っているが、あらゆる場面を想定した実践的訓練にはなっておらず、地域住民の協力体制も未整備である。	○	地域密着型サービスの枠組みを活かし、消防・警察に地域住民を加え地域が一体となった協力体制を整備し、あらゆる場面を想定した実践訓練が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れ、栄養バランスを考えた食事を提供している。1日の摂取量は1400kcalで水分1300ccを基準に個別に対応し、摂取量は記録し全職員が共有している。塩分制限者には、見た目は同じ食事を塩分抜きで提供し管理栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは、事務コーナーの左右にリビング兼ダイニングを含む共用空間と居室が使いやすく隣接している。季節を感じる装飾品や、台所から漂う調理の音・香など季節感や生活感を採り入れ家庭的な雰囲気を作り出している。共用空間の居室入口には、飾り棚を設置し自己作品や子供・孫の思い出の品を飾り自己アピールの場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や仏壇を始め生活用品・趣味の品を置き写真や自作品を飾り、中には畳を敷き和室にするなど、入居者個々が好みに応じた生活環境を作り、安心して過ごせる居心地よい居室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。